

あったかいが いいね

# シャローム横浜通信 2月号



## 新年を迎えて

寒気はまだなかなか退きませんが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

2022年も様々なことがありましたが、無事に新しい年を迎えられたことを感謝いたします。シャローム横浜では毎年ご利用者のおせち料理を栄養課と特養・ケアハウスの職員等が協力して、早朝から盛り付けすることが恒例となっています。用意したおせちをご利用者の皆様がおいしそうに食べておられる姿を拝見すると、こちらも心が温まりました。食を通じてアドベンチスト福祉会のメンバーである「あったかいが いいね」を感じられたお正月に感謝いたします。

しかし、3階フロアではご利用者・職員にとって苦勞の多い年越しとなりました。昨年の12月中旬頃から複数のご利用者に風邪症状が出始め、12月20日に抗原検査を実施したところ、4名のご利用者にコロナ陽性が確認されました。その後は徐々に陽性者の人数が増加し、利用者合計35名と職員6名が陽性となりました。そのため、ご利用者の皆様には12月20日の時点で全員居室隔離とし、職員も感染対策を実施することで、1月に入っ

た。シャローム横浜は従来型施設であり、1日3回の食事をレストランでご利用者に食べていただいております。また、居住スペースは4人部屋・2人部屋もありますので、空気感染する新型コロナは感染が広がりやすい環境になっています。そのため、対策として職員からの持ち込

みを防ぐために出退勤時の検温と週1回以上の抗原検査を実施し、体調不良時は休む等の対策を行っています。また新規入所者や体調不良者に対して、適時抗原検査を実施し、リスクが考えられる場合は隔離するなど、様々な対策を講じておりますが、今回の感染がきっかけで、退所になった方やレベル低下された方もおられます。皆様がお元気に回復できますよう努力を続けてまいりたいと思います。

2019年12月から発生した新型コロナや2022年2月24日から始まったロシアによるウクライナ侵襲、シャローム横浜においても様々な問題や課題が山積しておりますが、そのような中でも一人ひとりののちに向き合い、一人でも多くのご利用者が笑顔で生活ができますよう取り組んでまいりたいと願っています。

「きょうは野にあつて、あすは炉に投げ入れられる草でさえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなた方に、それ以上よくしてくださらないはずがあるつか」ルカによる福音書12章28節

皆様の上に、神様の祝福が豊かにありますようお願いいたします。施設長 高原信夫



## 明けましておめでとうございます

2023年も変わらぬ顔ぶれでスタートしました、ひまわりデイサービスです。今年はどうな新しい事を始めよう、皆さんはどんなことが好きなのかしら、とついつい考えてしまいがちですが、久しぶりのいつもの顔ぶれ、いつもの笑顔、いつもの時間を過ごしていると、ひまわりの「いつも」も大切なものだと実感します。

本年も変わらぬお付き合いの程、どうぞよろしく願いいたします。

主任 穴道 美知子



第270号

令和5年1月15日発行  
(毎月1回 15日発行)

責任者：施設長 高原信夫  
〒241-0802  
横浜市旭区上川井町 1988  
社会福祉法人アドベンチスト福祉会  
シャローム横浜

編集委員

小林・荒金・石橋

☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



## 2022年度EPA介護福祉士候補生の紹介

左より、ハニタさん、ウリさん、坂本、ロイさん ↓



インドネシアから、3年ぶりに新しい介護福祉士候補生を迎えます。

12月20日に関西研修センターでの6か月間の研修を終え、21日よりシャローム横浜での就労が始まりました。

3年後の介護福祉士国家試験合格を目指し頑張りますので、応援よろしくお祈りします。

事務局長 坂本 晋一

### 栄養課より

新年明けましておめでとうございます。元日は晴天に恵まれ、素晴らしいお正月を迎える事が出来ました。ご利用者の方もおせちを美味しそうに召し上がってました。

～おせちの内容～

黒豆、栗きんとん、伊達巻、紅白なます、寿かまぼこ、数の子、鰯の照り焼き、海老の姿焼、チキンロール、御煮め、お雑煮

本年も宜しくお祈り致します。 課長 小寺 秀偉



### 「前期高齢者としての最後の年に」

第178回 チャプレン 上前 至

元旦の朝といっても、昨日までと同じように空が明けてゆく。今年は特に空が青く澄み渡り幸先、いいともおもったが、違いといえはそのくらいの事で他に何かが違うわけではない。が、それでも何か昨日とは違うように感じるのは私だけであろうか？元旦の朝の不思議さである。特に私にとっては今年が最後の前期高齢者（前期、後期と分ける呼び方も私は好きではないが）の最後の年となりそうである。来年は私も後期高齢者の仲間入りである。私の父は68歳で没したが、それより長く生かされている事を感謝すべき事だと思わなければならない事だと思うのだが・・・。

今、世界におこっている現実を知るときに複雑な思いにもなる。中国は一昨年、人口減となり人口世界一の順位をインドに譲ったが65歳以上の高齢者が14%以上となり高齢社会に突入した。一方、世界の人口は80億人を超え更に2080

年頃まで増え続けるという。その人口増加は東南アジアも含まれるが、主たる増加はアフリカのサハラ以南であり、それらの国々の年齢中央値は17歳という。そしてそれらの国々では人口増加に比して食料増加が追いつかないという。そして昨年のロシアによるウクライナ侵攻はそうした国々の人々ほど大きな影響を受けているという。日本の国にいとそうした困難と違いに気づかない事が多いと思うが、そうした人々への苦難も知り少しでも助けの手を伸べていく私達日本人でありたいと年の初めに想う。

「私の兄弟であるこれらの最も小さい者の一人にしたのは即ち私にしたのである」

マタイ25章40節

